令和５年秋期　能見台地区推進連絡会要旨

１　日時

令和５年 12 月 23 日(土)　15：00～17：00

２　場所

能見台地域ケアプラザ

３　参加者

（地域側）自治会等地域団体関係　29 名

学校関係　４名

（能見台小、能見台南小、西富小、富岡中）

（支援チーム、その他行政側）

区役所　６名

区社会福祉協議会、地域ケアプラザ　５名

計　44 名

４　意見交換要旨

（テーマ）

「コロナ禍を経て　学校と地域の連携について」　（グループワーク）

５つのグループに分かれて、意見や課題について共有した。

（グループ１）

・地域人材の確保が大変である。町内会の中で集めるのが大変である。
ねらいをつけた一人一人を個々に説得していく方法しかなく手間がかかる。

・ICT 化が進むと、一部の高齢者は取り残され、情報を得ることができない人が出てくることになる。

（グループ２）

・「騒音」で地域から苦情が出ることについては、相手がわからず、見えていない中で対応することの難しさがある。

・「部活動」について、新たな視点で部活動をどう運営していくのか検討する必要があると感じた。

・「不登校」の問題について、集団に対する不安を訴える生徒が多くなっていることをみんなで認識しておく必要があると感じた。

（グループ３）

・学校行事、運動会等でやることを見直し、生徒を第一優先に行事を組み立て見直すことが多くなっている現状がある。

・学校側がクラブ活動等で地域や外部の機関・団体に任せられる関係性をつくることが大切である。

・小学生がシニアクラブ等高齢者と交流した際、単身高齢者の意識や気持ちが変化し意識が活発したことがあり、高齢者が変容していく姿に驚いた。

・授業内容や行事やイベント等見直していく転換期、いい機会でないか。

（グループ４）

・地域コーディネーターがいて、協力し合える土壌があると感じた。

・地域人材の確保については悩みが多い。自ら手を挙げてくれる人だけをメンバーにするだけでいいのか悩んでいる。また仕事の内容を義務化しないことは人材の確保には必要であると感じた。

・保護者等コミュニケーション下手になっている方が多くなっていると感じている。

・大きく問題を解決していくのではなく、細かい課題を一つ一つ解決することや少しずつ前に進むのが必要なのではないか。

（グループ５）

・生活様式等今までの姿に戻ることはないだろうと感じるので、地域コーディネーターとの連携を密にしていくことが必要であると感じた。

・地域から学校からも思っていること、考えていることをもっと声をあげていく必要があるのではないか。